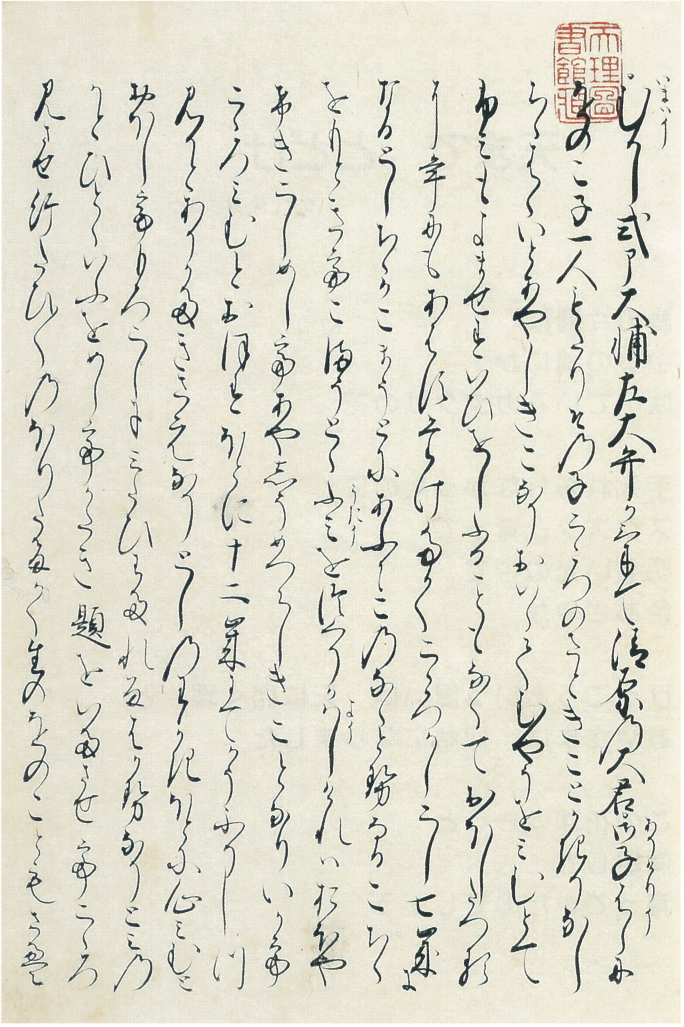
やまとの名品

# 宇津保物語　毘沙門堂本



▶【うつほものがたり　びしゃもんどうぼん】

20巻20冊
江戸初期写
縦27.5cm　横20.0cm

DATA



## ❖源氏物語に影響を与えた日本最古の長編物語

平安中期に成立した『うつほ物語』は、全二十巻から成るわが国現存最古の長編物語である。作者は古くから源順とする説があるが、詳しくは分からない。

当初独立してあった短編物語が、他の短編物語を取り込みながら、現在の長編物語へと変貌を遂げたとされている。初めから長編物語を意図して作られたわけではなかったためか、物語の内容や設定に多くの矛盾や齟齬が見られる。一つの物語がどのように作られていったのかを窺い知れるという点で、きわめて稀有な作品である。

書名の由来は、首巻の「俊蔭」巻で、主人公の仲忠が杉の洞穴（「うつほ」）で母から天人の秘曲を授けられたことによる。

内容は、仲忠が秘曲の演奏を以て一族を繁栄に導く音楽譚を中心として、絶世の美女あて宮の求婚譚、忠こそその継子出家譚など、多種多様な人物の物語が織り込まれている。筋立てや作中人物の設定など、『源氏物語』の構想に多大な影響を与えた。

また、『枕草子』には女房達が『うつほ物語』の作中人物である仲忠と涼の優劣を論じ合ったことが記されており、当時読み親しまれていたことが窺える。

このように、成立当初は宮廷でかなり盛行していた『うつほ物語』であるが、戦乱による火災の影響もあってか、室町末期には、その伝本はほとんど残っておらず、一般には容易に読むことのできない作品となっていたようである。

掲出本は諸伝本の中でも最も古い江戸初期の書写にかかり、一定して整った筆致で、誤記や訂正もきわめて少ない。この時期の写本としては珍しく全巻が備わっている貴重な写本である。京都の山科にある毘沙門堂に蔵されていたと言い伝えられ、「毘沙門堂本」と称されている。

（天理図書館　髙橋　諒）

＜天理図書館のお知らせ＞

Tel 0743-63-9200　URL https://www.tcl.gr.jp/
◇平日（午前９時～午後５時半）　土・日・祝（午前９時～午後４時半）
○８月の休館日：１日・８日・11日～17日・22日・29日・31日
（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）
※最新の情報については公式HP、Twitterでご確認ください。